

長野県知事の意見

(穂高広域施設組合新ごみ処理施設整備・運営事業に係る環境影響評価準備書)

[全般]

- 1 施設整備や管理運営について、安全性の確保や環境の保全に最大限配慮するとともに、稼働状況、モニタリング結果等の情報をわかりやすく積極的に公表し、地域住民の安全・安心の確保に努めること。
- 2 現況に対して予測値の大幅な増加が見込まれる場合は、実行可能な範囲で最大限の環境保全に努める旨を評価書において示すこと。
- 3 予測式や図表等を丁寧に記載し、住民に対してわかりやすい図書となるよう努めること。

[水象]

- 4 地下水について、良好な水循環が行われるよう、水の浸透や蒸発散に関して適切な配慮がなされた施工計画を検討すること。
- 5 事業実施区域は地下水位が高いことから、現状想定される最大の環境影響を踏まえた上で、最深部の掘削について、地下水位が安定した渇水期に実施すること。

[地形・地質]

- 6 評価書の作成に当たっては、犀川、高瀬川及び穂高川の三川合流地点が特徴的な場所であることから、注目すべき地形地質とし、記載すること。また、事業実施区域と活断層や注目すべき地形地質との位置関係を、丁寧に記載すること。

[土壌汚染]

- 7 土壌中のダイオキシン類濃度の予測に当たっては、大気質の年平均値を用いて行うこととし、影響が最大となる条件で予測を行うこと。

[植物]

- 8 植物相については、植物地理学や立地条件に基づく観点から地域の特徴をわかりやすく記載すること。また、植生についても上記の特徴を踏まえた上で、植物社会学や植生学に基づく観点から、わかりやすく記載すること。

[動物]

- 9 コウフオカモノアラガイについて、できる限り生息地の改変を回避すること。改変を回避できない場合は、類似した生態のカタマメマイマイの生息地に移殖を行うことを検討すること。

[生態系]

- 10 評価書の作成に当たっては、生態系模式図の生物間の相互関係が全体として連携して繋がっていることが分かるように、詳細な模式図とすること。また、生態系の単位を超えた生物間の繋がりを例に挙げて、相互関係をわかりやすく記載すること。

[景観]

- 11 事業実施区域は松本・安曇野方面と大町・白馬方面を結ぶ幹線となる道路に接しており、道路の屈曲部にあることから視認性が極めて高い。それを踏まえて、施設的设计に当たっては、建物と煙突の形状・意匠・色彩などに十分配慮すること。